様式３

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議名
（審議会等名）</td><td colspan="3">令和４年度　第４回社会教育委員会議定例会</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局
（担当課）</td><td colspan="3">生涯学習部生涯学習課　電話０４２－７６９－８２８６（直通）</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">令和５年２月２２日（水）　午前１０時～１２時１０分</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td colspan="3">相模原市立総合学習センター２階　セミナールーム</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委　員</td><td colspan="3">１４人（別紙のとおり）</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">０人（別紙のとおり）</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">８人（生涯学習課長、他７人）</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開の可否</td><td>■可　□不可　□一部不可</td><td>傍聴者数</td><td>０人</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開不可・一部不可の場合は、その理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">会議次第</td><td colspan="3">１　あいさつ
２　議題
（１）令和５年度相模原市社会教育関係団体への補助金の交付について
（２）ヒアリング調査の結果について
（３）アンケート調査の結果について
３　その他
（１）報告事項について
（２）情報提供について
（３）その他</td></tr>
</table>

議　事　の　要　旨

1　あいさつ

生涯学習課長あいさつ

生涯学習課長の進行により、開会のあいさつを行った。

古矢議長あいさつ

古矢議長があいさつを行った。

2　議題

古矢議長の進行により議事が進められた。

（1）令和５年度相模原市社会教育関係団体への補助金の交付について

事務局より教育委員会からの諮問について説明を行い、承認された。

（2）ヒアリング調査の結果について

資料に基づき説明が行われた後、各館の現状、各館の独自の課題、公民館全体に共通する課題について報告を行った。

（石川委員・安西委員）

○この館区の特徴は地域との繋がりが非常に強く、特に高齢者が積極的に関わっている点である。

○高齢者が積極的に関わる一方で長年の関りから、変化を望まない傾向にあり、新たな取り組みを行う上では、丁寧な調整が必要になっている。実例として、公民館職員が高齢者にインターネットの操作を説明する等事務が非常に増えているという声があった。このあたりは人材の登用が進めば状況が変わってくるのではないか。

○旧連絡所の活用については、フリースペースとしての活用を念頭に、今後、実行委員会を立ち上げ検討する。新しい取り組みを期待している。

○「公民館に行きたいが、どのように繋がりを持ったらよいのかわからない」という方々に対し、どのような対応をしたらよいのかについて、苦慮していた。

○特徴的な取組みとして、公民館図書室を活用し、公民館に親子を取り込む活動で、「小さなおはなし会」を開催している。２、３組の読み聞かせ会を開催しており、参加の敷居を低くすることで図書館から公民館への橋渡しができると期待している。

○事業への参加をきっかけにサークル化できるよう、つなげていきたいとの声もあった。

○興味深い事業で、美術大学の先生を講師に招き、高齢者のファッションショー

を実施していた。服装、身だしなみに気を配る事業だが、ファッションショー形式で見せて、褒めてもらう体験をすることで非常に明るい、良い経験になっている。このように地域の人材を活用し、小さな取り組みから公民館との連携を続けていくことが大切ではないか。

○公民館職員は任期が３年となっていることについて、他の公民館に異動することで異動前の公民館の経験を活かせるという良い面もあるが、毎回採用試験を受け直さなければならないため、苦労しているという意見があった。そういう形で任用することが良いことなのか疑問に感じた。

（金子委員・雨宮委員）

○現在の施設は、元々公民館として建てられたものではなかったことから、調理室が無いなど、他館とは違う建物的な特徴がある。

○地域内の離れた場所に公民館に似た役割の施設が点在していることや、交通の便の悪さなどから、近隣の方以外の利用が少ないことが課題となっている。

○一方、交通の便は悪くないが、正面入口が夜は閉鎖されてしまい遠回りしなければ公民館に入れないので何とかしたいという意見があった。

○以前は施設名称が異なっていたため､現在の名称が浸透していないようである。

○図書室が充実していて高校生が学校帰り等に自主学習スペースとして活用している。

○コロナ禍で急遽講座を中止する等、臨機応変な対応が求められた。どのような事態に対しても柔軟に対応できるような地域人材の発掘を心がけている。地域の様々な活動をされている方への声かけやサポートを今以上に積極的にやっていきたい。

○貸室について、地域的に１８時から２０時という枠は使いづらいため、１９時から２１時の利用枠を設定するなど、各公民館で柔軟に対応できたら良いという意見があった。

○部屋が空いていても予約しないと使えないという運用では公民館利用の敷居が高い。柔軟な対応が可能になれば利用者が増えるのではないか。

○「社会教育委員会議は何をしている機関かわからない、公民館現場を見に来て実態を知ってほしい」という声があった。

○長く利用している高齢の方々は、今までの形を踏襲したいという思いが強いようで、新しいことを取り入れることが難しい。

○公民館職員として、今以上に地域の情報を自ら収集していかないといけない。

○立地条件を活かした事業を行っているが、地域の子どもは地元の環境に慣れてしまっているため興味を示さず、別の地域の子どもの参加が多い。そこで敢えて、自分たちが住んでいる所にはこういうものがあるというイベントを開催す

ることで、子どもたちが将来に仕事を選ぶ際、地元が選択の一つになるような活動をしている。

（若林委員・海野委員）

○コロナ禍で３年間活動ができなかった影響は大きい。

○地域的に多くの自治会が関わっていて、コロナ前は３千人規模の運動会など様々な活動を行っていたがすべて止まってしまった。学校帰りの子どもたちが公民館内のフリースペースで勉強している光景が日常だった。

○貸室利用も３０％以下に落ち込んでいる。今後元の状況に戻すためには非常に長い時間がかかるのではないかという話があった。

○近くの洋菓子店のパティシエに来てもらいお菓子作りをするときは子どもたちの応募が多いが、現在はコロナのため人数制限をせざるを得ず思うような活動ができない。

○高校が近くにあり、高校生が関わった事業には子どもも来るが、大学生ぐらいの若者が集まらない。大学生等の若者を対象にした事業を実施したいが大学が近くに無いため大学生に来てもらうのが難しい。地域に住む大学生を対象としたイベントを実施したいという思いはあるがそこまで手が回らない。

○専門部は部会によっては高齢化が進んでいる。体育部会は比較的若手が多いが、文化部会は地域の方に相談しても新しい人が入ってこない。２０代・３０代の親子に参加してほしいが、仕事があるため公民館に関わるための時間を割くことが難しい。どのようにしたら良いか、夏休みの期間を狙って事業を考えていきたい。

○部会や地域の方達の意見を調整するのが難しい。職員が間に入り意見を調整しながら運営していくことに気を配っている。せっかく公民館の活動に携わっているのだから、楽しくやっている所を外に見せていかないと人が集まらない。

○職員の皆さんはコロナ前の状況に戻すためいろいろな事を考えているが、今は制限が多く考えても実現できないため、もどかしさを感じている。

○遊具の消毒ができなかったため、保育室を閉鎖していたことも、人を集められない要因のようで苦労している様子が窺えた。

○自分たちが楽しく活動しないと来た人が楽しくない、自分たちが本当に楽しくやらないと次にやりたいという人が出てこない。嫌々でやっていると、押し付け当番になってしまうという意見があった。「楽しくやっているから、私もやってみたい」というサイクルになると良い。

（小泉喜亮委員・大橋委員）

○公民館に来られた方に対し、積極的な挨拶や声かけ、入口に季節の花を飾るな

どコミュニケーションのきっかけを作る工夫をしているのがとても魅力的だと感じた。

○自習室での学びのサポートに近くの高校の生徒や教師のＯＢなどが来ていた。地域と連携を図っているという実感があった。

○独自の自主企画提案事業で、フルート講座を実施しており、そこにも参加者が来ているという話を伺った。

○３名の職員に共通していた意見として、職員の能力の弱体化を懸念していた。原因の１つが任期付という期間の制限と短時間勤務という時間的な制約という面で、職員のモチベーションに影響があるのではないかという意見があった。

○事業をする目的と研修の大切さを訴えていた。事業の実施が目的となってしまい、何のために事業を実施するのか、その後それをどう生かすのか、そのようなことを考えて事業を行うことが大切なのではないかという意見があった。

○「公民館は単に部屋を貸してもらえるところではなくて、社会教育の場だ」ということを伝えていかなければならない、「それを伝えられるのは誰かと言うと公民館の職員だ」ということが職員の共通意見で、とても高い意識を持って仕事をされていると実感した。

○一番必要なのは職員の研修であり、職員の能力の底上げをするために、職員同士の交流の場を設けて情報交換をする、「社会教育とはこういうことです」という研修の受講機会を数多く設けて欲しいという共通した要望があった。

○皆さんに共通して感じたのは仕事に対する意識が高い点である。公民館は社会教育の場であり、私たちはそのための研修で得た知識を積み重ね、経験だけではなく知識に裏付けられた仕事をしていきたいと言っていた。

○経験の長い職員から経験は大事だが、研修、知識も大事だという意見があった。

（秦野委員・水谷委員）

当該館について

○特異な立地条件は館独自の大きな課題と感じた。

○良い点として３名とも地域づくり、社会課題について事業に取り組む姿勢があること、参加者への社会教育的な関わり方について職員間で共通認識をしていることが挙げられる。

○参加者の成長のため単発の催しではなく、継続的に開催するよう工夫している。専門部の委員を公募とし意欲ある人を登用しているが、人材を見つける苦労があり今後どのような工夫をするか模索している。

○市施設と同居しているが、図書室がない。近くに学校が沢山あるがどの学校の通学路にも重ならないため、子どもがふらっと立ち寄ることもない。大学生や高校生も違う通りを通るのでふらっと来られない。来てもフロアにロビー機能

がないことが非常に大きな課題で地域の人への声のかけ方が難しい。

○駐車場が広く駅から徒歩圏にあり、隣接市在住の利用者も多いため、公民館の利用ルールを厳格にせざるをえない。「地域の人だから」と優遇する訳にはいかず、他市の人でも同じ利用条件にしないといけない。

○厳格に対応しすぎると利用しづらい要因にもなってしまう。地域づくりの拠点として地域を優先するということも考えられるが、バランスが難しいという点が課題であり、職員自身忸怩たる思いがある。

○小学校の通学路にあたっていないことから、小学校にチラシを持参し、直接子どもたちに渡している。保護者から「これに行きなさい」と言われるのではなく、子どもたちがチラシを見て、自分で判断して申し込む流れを作る努力をしている。

○土日開催の事業が非常に多い。親のための学級を共働きの人でも参加できるよう土曜日に開催して、安心して自分の時間を取って学べるよう工夫していた。

○子どもまつりの企画の話し合いの中で、おとなが子どもたちに「それ無理だよ」や、「ちょっと難しいよ」と言わないために、おとなと子どもの合同の会議の後、おとなだけで会議を持ち、「止めないでやらせてあげよう」「こういうやり方ならできるかもしれない」という子どもの主体性や意欲をどのようにして引き出すかを話し合っていて、職員は実行委員との関り方を工夫していた。

○若者の講座についても若者は企画会議では「眠れない」「ご飯作るのが大変だ」というような個人の課題をテーマにするようになりがちだが、そのような睡眠の問題や家事の負担感という問題が「社会の課題のこことも繋がっている」というように意見を上手に引き出すためには職員の力量が非常に重要であり、子どもや若者に対する大人の関わり方、姿勢、果たすべき役割、目標をしっかり共有するということが大切ということが、この公民館の事例からよくわかった。

○少人数で多くの事業を動かしている。このような状況だと他の職員にも専門性とともに互いをカバーする資質と知識が必要となる。公民館職員の人材育成、また、館長の人脈を引き継ぐための人材、もしくはその情報の継続性について組織としてどのように運営していくのかについても課題となるのではないだろうか。

○区役所等も若者関係の事業も始めているので、そこの整理は必要である。ただ若者向けの社会課題を一公民館で取り扱うのは限界がある。
地域固有のものとＩＴ関係も整理する必要がある。ＩＴ的なものは集めて専門スタッフを増やす必要がある。

○各館の立地条件等によって、取り上げるテーマや対象を今後考えることが必要ではないか。地区の拠点館を決めて、普遍的な課題や若者向けのテーマはその館が行い、職員を増員するなど、全館一律の運営を考えることもあって良いの

ではないか。

○保育者研修を行っているのはとても良い。しかし、僅かながらも有償なので、他のボランティアとの兼ね合いに悩んでいた。また、保育研修が他に広がらないのは、子ども連れで公民館事業に参加する人が減っていることがあるのではないか。共働きの保護者が増えていることも理由のひとつかと思う。しかし、共働きだからこそ、自分自身の時間を持ち、安心して学べる時間が必要で、公民館での一時保育もしっかりできるとそのような人たちがもっと参加出来ると思う。共働きの家庭でも、親自身の時間が必要。安心して子どもを預けて学べるしくみが必要である。そのため、公民館保育はとても大事である。

当該館も含め、全館に共通することとして

○事業企画における専門部の方々との関わりの難しさはどの館にも共通することだと思われる。地域の方々との丁寧なコミュニケーションや、参加者への社会教育的な関わりを促せる、事業を企画するには、職員の知識と力量が必要。

○専門部の委員に企画を任せるのでは無く、良好なコミュニケーションの中で、社会的課題を取り上げて行かれるよう、「指導助言」できる立場であるよう明確に位置づけることが、公民館職員としての働きやすさ、やりがいにつながるのではないか。

○子どもや若者の意欲を引き出すには職員の力量が必要であり、おとなが子どもに関わる姿勢と、関わるおとなが果たすべき役割・目標をしっかりと共有することが大切であり、提言の柱の設定時に意見交換したように、子ども・若者との関わり方を学ぶ機会を、多くの職員や子どもに関わるおとなたちにむけて作ることが必要であると感じた。

○「利用者数や利用団体数が多ければ住民の居場所となっている」とは言い切れない。生涯学習振興の拠点としての役割と、地域作り・地域住民の居場所との両立は、館の立地条件によっても変わってくる。相模原市の公民館が何を目指し、何を大事にするのか。相模原ならではの良さを活かしつつ、今の社会状況に合わせた公民館の役割を改めて見直し、全部同じ横並びのシステムではなく部屋の貸し出しルール等も考え直す時期になっているのではないか。

○人財の情報は多くの館が館内で共有している事と思われるが、長期的に考えると館長個人のつながりに頼る状況から公民館としてつながりを持つ仕組みが必要になっている。

○地域の人財とのつながりは、ふらりと来た人との雑談の中で生まれることも多い。公民館にロビー機能が無いのはその点が不利だと思う。一方で、広いロビーがあっても職員が積極的にコミュニケーションをしなければつながりは作れない。そうした双方の問題を個人の資質に頼るのではない「公民館職員の求め

られる力」として整理し身につける機会を作ることが大切だと考える。

（小泉勇委員・小林委員）

○単館で非常に閑静な場所にある。単館のためか利用者だけという非常に落ち着いた雰囲気があった。

○入るとすぐ目の前にサークル活動の様子がビデオで流れていた。職員の方々も非常に明るく前向きに活動していた。

○施設管理を含めて多くの事を公民館職員が担っている。

○ヒアリングの時はエアコンが故障していてその対応も公民館職員が行うなど、施設管理や文書収受も常勤職員１名が担っている現状を知り、職員が少ないと感じた。

○文化部は活発に活動できていて人づてで部員が集るような良い循環があるが、それ以外の部会は自治会からの推薦のためか、なり手がいないことが課題となっている。

○若者・子どもというキーワードについて、小学生を対象に事業を実施しているが、若者向けの事業については意欲はあるが若者が集まりにくい。利用条件、予約ルール、使用料などを若者が使いやすいように変えたい。フリーWi-Fi を設置するなど今の若者にマッチした環境を作ることが必要ではないか。

○旧連絡所の活用については若者の学習スペースやコーヒーが飲めるようなスペースにしたい。若者が飲食できる場所を用意する、クリスマス会など実施できると良いのだが、公民館のルールとしてどこまでできるのか明確でないため、踏み出しづらい。

○公民館のあり方についてこれで良いのか、公民館の社会的役割、本質について模索している姿があった。

次に各ブロックの状況について意見交換を行い結果を発表した。

Ａブロック（秦野委員）

○立地条件から地元の人だけではなく、他市の利用者が多い。マンション等が多く建っているなど、若い世代が多く住む地域のためか地元愛が少ない。その点をどのように培っていくのかという課題があがった。

○子ども若者も交えて多様な人たちが、「ふらり」と立ち寄れるような環境づくりが大切になる。併設館である、または閑静な住宅街の中など、自身で「行こう」と思わないと利用できないような立地条件の下では、職員の対応も含めてふらりと寄れる環境づくりが大事である。若者が行く駅前のカフェなどを参考に、ＮＰＯと連携して若者の就労の前段階として、カフェの運営を障害がある方や大学生が行う。そのような場所が必要ではないかという意見があった。

○自由な発想を生かすには、自由な使い方が必要であると考えている。公民館の利用方法について見直しが必要なのではないかという意見があった。

○人材やリソースがあるにもかかわらず生かしきれていない。パイプ役やコーディネーター役をどのように育成するかが重要となる。

○任期付職員の異動については経験値が増えることや経験を生かす場が増えるという面はあるが、短期間の異動では地域と繋がりができても、事業に生かす前に異動になってしまう。これは地域の人にとっても職員にとっても損失ではないかという意見があった。

○専門部委員の高齢化、委員の成り手の無さに課題がある。

Ｂブロック（若林委員）

○市民に対して「社会教育とは」についての周知が必要であるという意見が出た。社会教育委員も含め「社会教育とはこういうものだ」ということを広く知ってもらい、その一つとして公民館事業があるということも知ってもらうべきではないか。

○公民館のシステムを時代に合ったものに変える。若者に来て欲しいと思うのであれば変えていかないといけない。

○団体登録をしないと会議室が空いていても使えないという点は、柔軟に対応できるようにしたい。今は誰でもＱＲコードで予約できる時代であり、そのような時代に子どもたちは育っていることから、システム自体を変えていかなければいけない。

○究極は公民館という名前をそろそろ変えても良いのではないか。武蔵野市では「武蔵野プレイス」という名称で親しまれている。今の若者たちのニーズをキャッチするようアンテナを張りながら、公民館を運営しなければいけないのではないかという意見が出た。

○子ども若者を支えるための子どもの居場所としてどこの公民館でも簡単に利用できるようにして欲しい。

○不登校の生徒が増えているが、学校以外に行く場所が無い。居場所づくりの重要性が長く叫ばれていてもなかなかできない。公民館にその機能を入れられないかという意見があった。

○職員の異動周期をもう少し長くして欲しい。せっかく地域の人たちと知り合い、いろいろな事業を２年３年かけて実施してもまた異動となり、次の職員がその地域の人との繋がりを作るのにまた多くの時間を要してしまう。持続可能な運営を目指すため職員の動きをもう少し緩やかにすることができれば、公民館活動をさらに活発にできるのではないかという意見があった。

○コロナ禍が収束しつつあり、時代に合ったシステムの変更を考えていく時期に

差し掛かっているのではないか。

Ｃブロック（石川委員）

○地域に合わせた利用ルールを作る必要があるのではないか、利用条件は公民館ごとに事情が異なるため、横並びというシステムを変えてはどうかという意見が出た。

○なり手の固定化が課題であり、公募をしても同じ顔ぶれになってしまう。打開策として３年ごとに企画者を交代するというルールを設ける、子ども向けの事業は子どもたちも企画から参加してもらうなど工夫をしている。そこに高齢者の繋がりを活かした、経験者をメンターにする制度を設けるのはどうかと提案させていただきたい。メンターが後輩を育てる、後輩の活動の後押しをする人として意識を高く保つことができるのではないか。

○人材の育成のなかで最も大きな問題は職員が短期間で異動することと館長代理によって館全体の雰囲気が決まってしまうことではないだろうか。そのため意欲の高い人や若いときに公民館の経験をしている人に館長代理になってもらいたい。また、研修制度で職員を育てるシステムを作ることを社会教育委員として提案してはどうか。事務能力を高める研修制度ではなく、モチベーションを育てるシステム作りと、社会教育主事の資格取得と資格取得後の意欲を育てることについて時間的財政的に助成してはどうか。

（古矢議長）

三つの視点に沿ってディスカッションをお願いした。大変有意義なディスカッションができたと報告を聞いていてそう思った。石川委員の「職員を育てるシステムを作る」そのために市が補助する、そういうご提案だと思うが、良いアイディアと思って聞いていた。

報告書を読むと「社会教育とは何か」ということを公民館の中に反映させることが必要だという意見が散見される。それはとても大事で、そこをうまく考えないといけないと思う。また、非常に高い意識、モラルに裏打ちされて、公民館職員は活躍されている。一方で、窓口対応が事務的になっているとか、研修が大事だがなかなかできていない、正規職員を複数名配置して欲しい、或いは、社会教育主事など専門家の介在を望む声があった。

これらの意見を素材としてまとめて確認を得ること、その次の作業として意見に横串しを刺し、我々が一つの見方としてまとめるという作業があると思う。

三つ目の作業としてアンケート調査の結果と、各館の活動の実態を摺り合わる作業がある。この時どのような結果が出るか。微妙に食い違っているかも知れない。

例えば、ある年齢層はなかなか公民館を利用しない、利用しにくい、そのような

傾向がある場合、一体それをどうするのかという問題になる。モラルの高い職員が一生懸命働いているし、いろいろな事業を専門部の方が企画して運営されている。

しかし、それがうまく繋がっていないということであれば、社会教育委員会議としてどのような意見を出していくのか。これから、ディスカッションを重ねていき、これらの素材をどのように整理して、今期のテーマにつなげていくか、どのようにまとめていくか、意見を伺う。

（秦野委員）

ヒアリングの設問を調査研究提言の柱に沿った設問にしたことで、公民館の職員からこれに関わる思いを引き出せたと思う。せっかく出していただいた職員の思いや課題、社会教育委員がとらえた課題を整理してまとめることを今後の作業の中心にしていったらどうか。

（古矢議長）

同感である。改めて、次回の定例会は５月の予定だが、その間に小委員会でどのようなまとめ方をするか議論して、その結果を定例会にお返ししたいと思うが、そういうことでよろしいか。

（全委員）

反対意見なし

（古矢議長）

ありがとうございました。

（３）アンケート調査の結果について

事務局より「楽しめる学びと催しに関するアンケート調査」及び「市政に関する世論調査」に結果ついて、資料に基づき報告した。

３　その他

（１）報告事項について

事務局より「関東甲信越静社会教育研究大会（山梨大会）」及び「神奈川県社会教育委員連絡協議会地区研究会（愛川町会場）」の開催結果等について、資料を配布した。

（２）情報提供について

事務局より「淵野辺駅南口周辺まちづくり事業」について説明した。

（３）その他

（事務局）

次回小委員会は３月下旬～４月上旬、定例会は５月頃に開催予定。日程調整は、後日あらためて行う。

古矢議長のあいさつにより、会議を終了した。

以　上

令和４年度　第４回社会教育委員会議定例会出欠席名簿

	氏　　名	所　属　等	備　　考	出欠席
1	小泉　　勇	相模原市立小学校長会		出席
2	金子　友枝	相模原市文化協会		出席
3	小泉　喜亮	相模原市ＰＴＡ連絡協議会		出席
4	大谷　政道	相模原市公民館連絡協議会	副議長、小委員会委員長	出席
5	安西　信行	相模原市青少年関係団体連絡会		出席
6	大橋　千景	虹のおはなし会		出席
7	若林　由美	一般社団法人星と虹色なこどもたち		出席
8	石川　利江	学識経験者（桜美林大学教授）		出席
9	秦野　玲子	学識経験者(ＲＥ　Ｌｅａｒｎｉｎｇ代表)	小委員会委員長	出席
10	古矢　鉄矢	学識経験者（学校法人北里研究所参与）	議長	出席
11	小林　政美	学識経験者(特定非営利活動法人男女共同参画さがみはら　副代表理事)		出席
12	海野　浩	公募		出席
13	水谷　英正	公募		出席
14	雨宮　健一郎	特定非営利活動法人文化学習協同ネットワーク		出席